

2024 年度 特別区 I 類本試験（教養試験） 講評

No.	科目	出題内容	正解	正答率*	講評
1	文章理解 (現代文)	要旨把握	2	B	【文章理解】 例年通り、主旨把握3題、文章整序1題、空欄補充1題の計5題の出題であった。No. 4の整序問題(選択肢の絞り込みの助けとなる接続語が多く容易であったが、それ以外の問題は例年と比較して難易度が上がっており、苦戦を強いられた受験生が多かったと思われる。 【英理解】 近年は内容把握2題、空欄補充1題、文章整序1題であったが、昨年から文章整序がなくなり、代わりにことわざ、慣用句が出題されている。英語の慣用句の知識が求められ時間をかけることなく正解できる問題である。ただし、昨年同様英語の慣用句の知識がなくとも、四字熟語の知識と選択肢の慣用句の直訳・類推で解ける問題であった。 【判断推理/数的推理】 判断推理：昨年同様5題で、問題によって難易度が異なる。No. 10は、総当たり戦を2回行うという設定でその分、勝負がついた試合、引き分けとなった試合を整理するのが少しハードであったかもしれない。No. 11の暗号の問題は昨年より易化し、「緑色」「赤色」を英語表記にして対応関係を調べると、5×5(ローマ数字(I~V)、ひらがな(あ~お))の対応表の中にアルファベットを順番に並べることができる。暗号の単元を学習する際に、例題で取り上げられるようなタイプの問題であったため、半数以上の受験生が正解していた。No. 12は、5人全員が寿司屋に行く意見でまとまった最終結果から逆算して、3回目、2回目、1回目の調整前の時点で寿司屋に行きたい者と焼肉屋に行きたい者を整理すれば、肢1の内容と合致する。No. 13は、肢5を想定正解として作られたと思われるが、条件から考えられる投票パターンの人物(Bのみに投票した人、Cのみに投票した人、AとBに投票した人)が確実にいたとは判断できないため、正解肢なしの不適切な出題となった。なお、試験後に、特別区人事委員会より没問であることが発表された。No. 14は、「1を出したら確実に負け」、「7を出したら確実に勝ち」といったゲームの性質に気づき、問題文で与えられた条件とこの性質を上手く活用する必要がある。加えて、7回目でAが出せるカード(3, 5, 7)によって場合分けをした上で、1回目、3回目、5回目と4回目、6回目で2人が出せるカードの組合せが入れかわる可能性も考慮しながら推測しなければならぬことから、正答率は3割台と低かった。 数的推理：昨年同様6題で、昨年同様平易であった。No. 15は、A駅からの所要時間の表と「両隣の駅までの所要時間が2分又は3分」という条件から、両隣になる駅のペアを考えた上で経路図を描ければ、正解肢を選びやすい。No. 16は、△AODと扇形OBDを合体させた図形から△AOCと扇形OBCを除けば、求める図形の面積を得られるが、△AOCの面積を求める際に円周角や相似の性質をうまく使えるかがポイントになる。No. 17は、どの選択肢も問題ないようにみえるが、乗車定員が自然数でなければならず、その56%が選択肢のうちいずれかであるから、各選択肢の値を0.56で割ったときに自然数になるものを選べばよい。No. 18は、条件から先頭の選手、A、Bの速さの比と、先頭の選手がゴールに到着した時のBの位置がわかれば、BやAの具体的な速さを計算で求めることができ、Aがゴールまでに要した時間を導出できる。No. 19は、2018年以降2年毎に出題されている流水算の問題であり、「過去問解きまくり①『数的推理・資料解釈』」問題86で流水算の対策をしていた受験生は、解けたのではないだろうか。なお、問題86は2020年の特別区で出題されたもので、「Aのエンジンが停止する」、「Aの速さがBの1.5倍」など、No. 19の問題設定と共通している部分が多い。No. 20は、「過去問解きまくり①『数的推理・資料解釈』」問題30に類題があり、こちらもしっかり対策をした受験生は正解できたであろう。
2		要旨把握	4	C	
3		要旨把握	5	B	
4		文章整序	2	A	
5		空欄補充	4	B	
6	文章理解 (英文)	内容把握	2	B	
7		内容把握	2	A	
8		空欄補充	4	B	
9		ことわざ	1	C	
10	判断推理/ 数的推理	試合	5	C	
11		暗号	5	B	
12		推理	1	A	
13		論理(ベン図・その他)	正解なし	—	
14		推理	2	C	
15		最大・最小	4	B	
16		平面図形の計量	3	B	
17		比・割合	4	B	
18		速さ	3	A	
19		速さ	5	C	
20	比・割合	3	B		
21	資料解釈	表(実数・構成比)	4	A	
22		表(増減率)	1	C	
23		グラフ(実数)	1	B	
24		グラフ(構成比)	3	B	
25	空間把握	平面図形の分割・構成	2	C	
26		平面図形の分割・構成	1	C	
27		立体図形の分割・構成	2	C	
28		軌跡	5	C	
29	社会科学	国際法	1	A	
30		公害防止または環境保全	4	B	
31		国際連盟または国際連合	3	B	
32		国際経済体制の変遷	3	C	
33	人文科学	実存主義者とその著作	3	C	
34		室町文化	2	C	
35		フランス革命とナポレオン	5	C	
36		地図の図法	3	C	
37	社会事情	G7広島サミット	3	C	
38		デフレ完全脱却のための総合経済対策	5	C	
39		物流革新緊急パッケージ	1	B	
40		第76回カンヌ国際映画祭	2	C	
41	自然科学	熱量の保存	3	B	
42		コイルの磁気エネルギー	2	C	
43		芳香族化合物の名称	3	A	
44		物質の状態	4	B	
45		生物の科学史	4	C	
46		動物の行動	5	A	
47		恒星の誕生と進化	1	C	
48		先カンブリア時代	1	C	

				<p>の磁気エネルギーは、理系でないで学習していない内容であり、他の試験種ではほぼ出題がないため、知らない受験生がほとんどであったと思われる。</p> <p>化学：No. 43 の芳香族化合物の名称は、高等学校のとき理系で有機化学まで学習していると基礎的な内容であるが、なかなか取り組まないテーマであり、名称を知っているかいないかであった。No. 44 の物質の状態は、通常学習するよりも深い知識が問われていたため、未知のことがあったかもしれない。</p> <p>生物：No. 45 の生物の科学史は、生物学者の名称と実績の組み合わせが問われる分野横断的な出題であり、正解である岡崎フラグメントは、未知の受験生が多かったと思われるため、正答率も伸び悩んだ。No. 46 の動物の行動は、特別区ではあまり問われてこなかったテーマであり、やや細かめな内容も問われていたため、盲点事項となっていたかもしれない。</p> <p>地学：No. 47 は恒星の誕生と進化は、2010 年に出题されたときよりも、深く細かめな知識も問われていた。なお、16 年連続で宇宙分野からの出題が続いている。No. 48 の先カンブリア時代は、特別区では初めての出題であり、単なる用語の暗記ではなく、しっかりと意味を理解していないと正解を選びにくかったと思われるため、正答率も伸び悩んだ。</p>
--	--	--	--	---

※ 正答率（A：60%以上、B：40%以上60%未満、C：40%未満）は、LEC公務員試験 受験生応援企画『本試験無料成績診断』のデータ（5/1 14:00 時点）に基づいて算出しています。本成績診断のご利用方法等の詳細は、LEC公務員 Web サイトの専用ページ（<https://www.lec-jp.com/koumuin/juken/seiseki/>）にてご案内しています。



KL23768